

令和 5 年 3 月 13 日

新宿区長宛て

申請事業者 所在地 新宿区高田馬場 1-20-16  
(運営法人)

法人名 社会福祉法人 サン

法人代表者 理事長 新井 茂  
職名・氏名



### 福祉サービス第三者評価受審結果に基づく改善取組計画書

下記のとおり改善課題および具体的な取組計画をまとめたので報告します。

#### 記

#### 1 受審事業所名

より処ぬくみ・くるみ

#### 2 改善課題

- ・アセスメントの見直しやケアマネジメント関連の書類に不備がないかなどの確認が出来ていない時がある為、確認をしっかりと行う事。
- ・ヒヤリハットの報告が少ないため、事故に繋がる危険事例については、積極的にヒヤリハットとして報告を上げて、事故予防対策の強化に努める。
- ・現在作成を進めている事業継続計画(BCP)を完成させた際には、内容を職員とも共有し実際に稼働させての訓練の実施を行っていく。

#### 3 具体的な取り組み

- ・毎月、計画作成者同士で確認作業を徹底していく。ケアプラン・モニタリング・アセスメントが出来たら、必ずスタッフ全員で共有し、今後のケアに繋げていく。
- ・スタッフ会議で、記録・視点の変換ポイントを伝え、事実のみを具体的に記録に落としていく。利用者の日々の様子から「危ない・危険だな」という場면을積極的に入力し、事故防止に繋げていく。
- ・現在、事業継続計画(BCP)を作成中であり、近く完成予定ではあるが、役職者会議等で明確に完成期日を設定し、全スタッフでその内容を共有出来るようにしていく。



#### 4 評価機関に対する感想

今回、より処ぬくみ・くるみに評価機関の方々が入って頂いたことで、改めて、我々の足りない部分に気がつくことが出来ました。また、家族アンケートやスタッフアンケート等を通じて再度「ケアの質」・「コミュニケーションの重要性」をスタッフ皆で話し合い、考える事が出来ました。我々、より処ぬくみ・くるみでは「自立支援」を特に意識し取り組んでおります。毎日の「食事準備」「掃除」「洗濯」等は利用者が主体となって行い、「難しいところ」は職員がサポートするように心掛けております。また、お声掛けに関しても、「立てますか?」「食べられますか?」等、必ず利用者自身が「YES」か「NO」を選んで頂けるように、職員間で周知しております。利用者は認知症を抱えておりますので、考える事や判断することに時間がかかる時がありますが、職員は「待つこともケア」という事を指導の下取り組んでおります。基本的に「業務よりケア優先」とし、極力職員も椅子に座り、目線の高さを合わせ、コミュニケーションを多く図り、場の雰囲気や利用者の不安軽減に努め、居心地の良い空間作りを職員全員が意識し取り組んでおります。そして、職員も環境の一部である事を理解し、声の大きさ、声のトーン、表情を意識しながら接しております。さらに、社会福祉法人として、少しでも地域に貢献できるように、積極的に地域活動などに参加し、いつまでも住み慣れた地域で、安心した生活が送れるように、地域に根付いたグループホームを目指していきたいと思っております。

#### 5 受審事業所からの意見等

今回、組織マネジメントとサービス分析の両方を行い、また、場面観察よりの確かな評価を頂いたことにより、自施設を客観的に捉えることが出来ました。次年度に向けて、さらなるケアの向上に取り組み、スタッフ間・家族とのコミュニケーションを今まで以上に取りながら、利用者に関わる全ての方が、チームとなり輪となって行っていきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。